



探究ニュース ACCESS 1号

平成30年5月9日 東京都立八王子東探究部

◇探究オリエンテーションを通して◇

4/10～12に行われた探究オリエンテーションについて。ここでは、

- ①何を行ったか（次年度以降のための情報共有を兼ねて）
 - ②当日の生徒の様子
 - ③事後の生徒の変化（今後の指導へのご参考へ）
- を、ご紹介致します。

1. 哲学対話（@首都大、180分）

「問うこと」をテーマに学年全体でグループワークを行いました。

①当日行ったこと

(1) 質問ゲーム

- (a) 4～5人のグループを組む。
- (b) 「生まれ変わったら何になりたいか」の質問に、1人が答える。残りの人は2分間、その人に質問し続ける。
- (c) 答える人を変えて、繰り返し行う。

(2) 哲学対話

- (a) 15～16名のグループを組む。
- (b) 一人一人が「問い」を紙に書いて発表する。（例）机に座ってはなぜいけないのか
- (c) 全員が発表し終わったら、投票で今日対話するテーマを決める。
- (d) 対話を行う（50分程度）。（ルール）コミュニティボール（毛玉のようなもの）を持っている人だけが発言し、発言する人は手を挙げてその人からボールをもらう。何を言ってもいい、人を否定するような発言はしない、聞いているだけでもいい、お互いに問いかける、各グループに教員及び大学院生が最低1名ファシリテーターとして入る。



②生徒の様子

グループによって雰囲気は大きく違うが、概ね積極的に対話していた。15人前後というグループの人数だからか、一部全く発言しない生徒もいた（それでも構わないというスタンス）。ファシリテーターのグループへの関わり方によって様子が異なり、対話へ積極的に関与しないファシリテーターの方が生徒同士の議論が活発であった。

2. シグソー法の体験（各クラス、50分）

①当日行ったこと

- (1) 4人班を作り、「文化祭クラス参加で何をするか」について、班の4人がそれぞれA 演劇 B お化け屋敷 C 飲食 D 縁日 に分かれる。簡単に自分の分担のアピールポイントを考えておき、4人で話し合う。
- (2) 同じ分担の生徒（エキスパートチーム、各分担およそ10人）で話し合い、さらに内容を深める
- (3) 元の班に戻り、それぞれの担当を踏まえて再度話し合う

②生徒の様子

最初の4人班のときには消極的な理由で自分の企画を勧めていた生徒が、エキスパートチームでの話し合いを経て中身が具体的になっていき、最後のクロストークでは自分の企画を選んだ理由を具体的に面白おかしく話していたのが印象的だった。（教員A）

最初の自分が選んだものの紹介はうまく話せなかったが「自分の企画を通すためのプレゼンをする」と伝えたところしっかり紹介できるようになった。最初の意見を最後まで通し切る生徒が多かったが、自分の意見を持たない生徒はエキスパートチームで意見をもてるようになった。最後のクロストークでは、企画のメリット・デメリットをしっかりと話せていた。議論が深まった。(教員B)



3. マインドマップの作成, トライアングルディベートの体験 (各クラス, 50分)

①当日行ったこと

(1) マインドマップ(中心にテーマ「18歳からの飲酒について」を書き, そこから発想したことを枝のように伸ばしていく)を作成する。作成後, 3人班で作成したマインドマップを回し, 他人や自分の枝をさらに広げる。

(2) 3人班(A, B, Cさん)になる。AさんがBさんにテーマに反対する意見を1分間話し, 次にBさんはAさんに1分間質問し続ける。それを賛成・反対の意見を入れ替えながらAさん~Cさんそれぞれで行う。

②生徒の様子

狭いテーマだったのでマインドマップの広がりには限定的だったが, 生徒はしっかり広げていた。ディベートはどちらかの立場に立って意見を述べさせて, 後半入れ替わることもあるので, その経験をさせたのはよかった。(教員C)

「1分で自分の意見を話して」あるいは「1分間質問をし続けて」といってすぐに始めても, すぐに意見や質問をし始めていたことに驚いた。事前にマインドマップで自分の考えを整理していたことが大きかったのではないかと。(教員D)

○振り返り(アンケート等より)

互いに話をする機会が入学初期に増えることでクラス全体がなじんでいた。互いを知る, という面では役に立った。初回の授業でも話し合いやグループワークによく取り組んでいた。(教員アンケートより)初回の授業の生徒の様子が例年と全然違い, 自己紹介なども積極的だった(某先生)問いを立てることの大切さが分かった。自分の意見を客観的に見ることが出来るようになった。人と話し合うことで自分の考え方が深まったり, 新たな見方ができるようになったり出来るようになった。ジグソー法では, 最終的に最初の案より格段に良い合理的な案ができあがり, 感激した。今まではあまり自分から考える, 自分から探し求めるなんてことを推奨されたことは無かったけれども, これからの社会に必要なだと聞いて普段から自ら『探究』することを意識したいと思った。(生徒アンケートより)

○探究部所感

探究活動を行うにあたって最も難しいことは「何を探究するか」を決めることです。そのためには, 普段から自分は何を調べたいのか, 何を疑問に思う人間なのか, ということ意識することが大切です。また, そのためには他者からの意見や観点を聞くことも必須となってきます。それらに慣れ, 自分の中から自然と疑問が発生し, そのことについて自然に他者と話し合える。そんな環境があって初めて探究活動というものには意義のあるものとなるのではないのでしょうか。

探究部としても, 今回の活動を行う前と後では様子が全く異なり, 授業への取り組みが積極的になったと感じています。『探究活動とは「自ら学ぶ, 自ら考える, 自ら創る」, このことで, 答えの用意されていない「問い」に対する答えを追究すること。』(探究オリエンテーション全体ガイダンス資料より)。より良い探究活動ができる生徒のために, 何をすればよいか。これからも考え続けていきます。